青梅市文化財ニュース

第 3 号

昭和62年11月 1日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

前号の「文化財ニュース」では、金剛寺の文化財を中心に紹介しましたので、今号は、青梅駅の東部地域の文化財を紹介しましょう。

勝沼の「乗願寺」(東青梅駅西 400m)には『三田氏軍旗及び兜前立』が所蔵されています。

三田氏軍旗と兜前立 (青梅市指定有形文化財)

『軍旗』は、縦 102cm・横 71cm の絹製の旗で、上部には黒地に白く扇紋を、下部には白地に朱色で三巴紋を配したものです。『兜前立』は金銅製の開扇形のもので、銀の要(かなめ)を打った優品です。共に三田氏最後の武将「三田綱秀」使用のものとして伝えられています。

乗願寺にはその他、「小峰峯真墓」(江戸時代の書家)、「斎藤真指墓」(明治初年『皇国地誌』を執筆)もありますので、訪れた際にはぜひ見てほしいと思います。

「住吉神社」(青梅駅東 250m)には、小林天淵画「雲竜図」が伝わっています。

雲竜図 (青梅市指定有形文化財)

小林天淵(江戸後期、青梅市仲町に生まれた画家・書家)が文政7年(1824)

住吉社拝殿新築の際、その天井に描いたもので天淵47才の作になるものです。

ここ住吉神社境内には、「嶮谷先生の碑」(江戸後期の学者『根岸典則』を顕彰した碑)、小林天淵の「筆塚碑」(天淵70才の時、祖父一小峰峯真一以来の筆を埋めて建立したものだが、近年裏面が剥落した)、「櫛笥大納言隆望卿女歌碑」(緑泥片岩製の碑で、「はるかにもここにうつつして住吉の神垣ふかき恵をぞ思ふ」と万葉仮名でかかっている。)もあります。また、本殿は桃山時代の建造と推定される建造物であり、文政期の建造になる拝殿は、江戸期の青梅町人の財力を伺い知ることのできる豪華な彫刻に飾られたものです。

なお、この住吉神社の例大祭の際、町内に飾られる「山車人形」(住江町『神功皇后』・本町『神功皇后と武内宿禰』・仲町『静御前』・上町『日本武尊』・森下町『武内宿禰』の5体)もそれぞれみな青梅市指定の有形民俗文化財ですが、5月の祭礼の時でないともみられません。

文化財ミニミニ情報

成木の慈願寺には、成木石灰の創始者の一人・木崎平次郎の墓と伝える石造の五輪塔と宝篋印塔がありますが、最近の調査によると大変損傷がはげしく、倒壊寸前の状態のようです。早急に補修するなり、保存するなりの措置が必要のようです。

なお、このような状態のぶんかざいはをみかけたらご一報ください。

(文責 野村慎三郎)